

# 第 4 学 年 国 語 科 学 習 指 導 案

第 4 学年 男子 18 名 女子 15 名 計 33 名

指 導 者 川 原 維 史

国語科の指導において、読み取る・読み深める・読み味わうという段階をふまえた授業を展開することで、読みの力を高めていく。この学年では「比較する読み」を高めるために、戦争中と戦争後の比較はもちろん、父母のゆみ子に対する思いを叙述に即して読むということを通すことで、読みの力を高める検証授業としていく。

1 単元名 場面をくらべて読もう（教材「一つの花」4年光村下）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに三年下「ちいちゃんのかげおくり」で、「場面の移り変わり」を想像しながら読むことを通して、戦争が幼い子どもまで巻き込む悲惨さについて理解している。それを受け、四年上「三つのお願い」では、場面ごとの登場人物の気持ちを声に出して表す学習をしている。また、四年上「白いぼうし」では、言葉や表現に気を付けて読んだり、会話や行動から登場人物の気持ちや人柄を考える学習をしてきた。

そこで、本単元では、場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む能力を身に付けさせるために、戦争中と戦後の場面を人物の言動や情景を読みの視点にして比べながら読んだり、父母のゆみ子に対する思いを叙述に即して読んだりすることができると考え、本単元「場面をくらべて読もう」（教材「一つの花」）を設定した。

この学習は、登場人物の言動や優れた叙述を読み取りながら、自分で学習方法を工夫して取り組む「ごんぎつね」へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「一つの花」は、戦争という時代背景の中でゆみ子という幼い女の子が父母の愛情を受け、健やかに育っていく様子が時間の経過と共に描かれており、子を思う親の心情や平和の尊さについても学ぶことができる教材である。

そこで、本単元では、登場人物の様子と場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気を付けて想像して読んだり、題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもったりすることを通して、子どもたちと同年代の人物の戦争体験により迫っていけるようにしたい。

具体的にはまず、戦争中の生活や暮らしの様子が分かる資料を教室内に掲示したい。そうすることで、子どもたちが物語の時代背景を捉えやすくなり、当時の暮らしがいかに苦しく大変であったかに気付くことができると考える。

また、場面を比べて読む視点としては、戦争中と戦争後の比較はもちろん、父母のゆみ子に対する思いを叙述に即して読むことが挙げられる。その際、「一つ」という言葉に着目し、当時の状況や作者の思いなど、読みを深めさせていきたい。

さらに、授業の終末で、父親や母親の立場で日記を書くことを通して、場面ごとに読み取った情景や登場人物の心情を読み味わいたいと考える。

(3) 子どもの実態

国語科に関する興味・関心や本単元に関する学級の実態は、以下の通りである。

【調査人数：33人 実施日：7月18日 ( )は人数 重複回答あり】

1 国語の勉強の中で、得意なこととその理由

① 読書 (14)

- ・本を読むことが好き (5) ・いろいろなことを知る・分かる (3)
- ・本の世界に入っている (1) ・すらすら読める (1) など

② 漢字 (9)

- ・覚えるのが楽しい (4) ・しっかり書ける (1) ・漢字が好き (1)
- ・大人になったとき役立つ (1) など

③ 詩 (8)

- ・自分で詩を作るのが楽しい (2) ・すぐに覚えられる (1) ・よく読む (1)
- ・漢字が苦手だから、あまり漢字のない詩がいい (1) ・短くて簡単 (1) など

④ 作文、物語文 (4)

- 《作文》 ・教科書を見たら、すぐに書ける (1) ・作文が好き (1)
- 《物語文》 ・役になりきれ (1) ・話がおもしろい (1) など

2 国語の勉強の中で、苦手なこととその理由

① 漢字 (13)

- ・覚えられない (6) ・苦手 (2) ・4年生から難しい (2) ・漢字が多すぎる (1)

② 作文 (12)

- ・長い文章を書くのが難しい (4) ・何を書けばいいかわからない (3)
- ・書くのがめんどくさい (2) ・考えるのがいや (1) ・技法(改行・「」)が難しい (1)

③ 物語文、話す・聞くの単元 (5)

- 《物語文》 ・登場人物の気持ちを考えるのが苦手 (1) ・読んだことを書けない (1)
- 《話す・聞くの単元》 ・聞きとれないことがある (2) ・メモを取ることが苦手 (1)
- ・話すときに大切なことを忘れてしまう (1)

3 よく読む本の種類

① 物語 (21) ② 伝記 (13) ③ 絵本、図鑑 (9)

4 戦争について書かれた本

- ・知っている (22) ・ちいちゃんのかげおくり (19) ・オットー (1)
- ・ひろしまのピカ (1) ・ジャンヌダルク (1)
- ・知らない (11)

5 一言で言う戦争のイメージ

- ・殺し合い (7) ・たたかい (4) ・こわい (4) ・爆弾 (3) ・原爆, 死 (2)
- ・あらし, 命がけ, 戦車, 火, 特攻基地, ドッカーン, おもしろそう (1)

6 戦争についての意見

- ・こわいもの (10) ・なぜ起きるのかわからない (5) ・一生やってほしくない (5)
- ・人が死ぬからよくない (3) ・かわいそう (3) ・やってみたい (2)
- ・ふつうに生きてほしい, 罪のない人を殺すことがわからない, 国が仲良くなれば戦争は起きない, 今の日本がいい, 殺される (1)

7 戦争について知っていること

- ・爆弾が落ちてくる, みんな殺されていく, 剣・鉄砲 (3) ・8月6・9日, 避難 (1)
- ・食糧難, ちいちゃんのかげおくり, 原爆ドーム, 爆弾, 戦車, 人と人が戦う (1)
- ・祖父が飛行機修理の仕事, 父の生まれた年に終戦 (1)

8 戦争中、人々はどんな暮らしをしていたか

- ・防空壕で過ごしていた（6） ・貧しい暮らし、一生懸命逃げていた（3）
- ・死にそうな気持ちで（2） ・辛かった、隠れて、食糧難、家が焼かれて苦しい、避難の準備をしながら、恐れるように、他人よりもまず自分が生きるように、体を鍛えて（1）

9 日本は戦争をしたことがあるか

- ・ある（24） ・ない（0） ・無回答（9）

《考察》

本学級の子どもたちは、教材「一つの花」のような物語単元の学習について、得意とも苦手とも言えない状況にあることがわかる。得意な理由としては、「役になりきれる」、「話がおもしろい」が挙げられたが、読み取りについての理由は挙げられなかった。一方、苦手な理由には「登場人物の気持ちを考えるのが苦手」、「読んだことを書けない」といった読み取ること、読み深めることについての理由が挙げられた。このことから、子どもたちは物語の内容自体は理解しているが、その内容を読み取ることや読み取ったことから自分の考えを書き表すことができないと考えられる。

また、戦争について書かれた本を知らない子どもが11名もいた。3年生で「ちいちゃんのかげおくり」を学習しているため、知っている本もそれが一番多かった。今は平和な時代となり、そのため戦争経験のない子どもの意識の中に「戦争」が残らないのではないかと考える。

しかし、戦争のイメージや戦争について知っていることや意見などをみると「殺し合い」、「怖いもの」、「一生やってほしくない」など戦争の残酷さについて挙げられている。そのため、戦争があってはならないもの、繰り返してはならないものであるという意識はもっていると思われる。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、戦争の悲惨さ残酷さを感じさせることで、より登場人物の気持ちに迫っていけるようにするとともに、叙述を基に想像しやすい環境設定をすることが大切である。

ア 実態調査から分かるように、子どもたちは戦争の悲惨さ残酷さについて、曖昧な知識しか持ち合わせていない。そのため、資料等を準備し、時代背景を十分に理解させるようにする。また、少数でも「戦争をやってみたい、おもしろそう」と答えた子どもがいることを受け、本単元前の読書の時間に、戦争に関する本の読み聞かせ・紹介を行ったり、戦争に関する話（原爆、終戦、テレビ録画）をしたりすることで、学級全体に戦争の悲惨さ残酷さを理解させたい。

イ 教室掲示の資料としては、「一つの花」作者である今西祐行さんの年表や文中にも出てくる防空頭巾など戦時中に関わる写真を用意することで、当時の暮らしについて気付かせたい。また、その様子から、叙述を基にした登場人物の気持ちを想像していけるようにしたい。

ウ 場面意識をもった読み取りができるように、一から三の各場面設定を確実に把握させるとともに、場面ごとの登場人物の行動や気持ちに着目させることで、その読みに迫っていききたい。その際、父親や母親の立場で日記を書くことや動作化・劇化を通して、読み取った場面ごとの情景や登場人物の心情を読み味わいたい。日記や動作化・劇化を取り入れることで、自分の考えを書き表す抵抗を少しでも和らげられればと考える。

エ 場面を比べて読む視点としては、戦争中と戦争後の比較と父母のゆみ子に対する思いを叙述に即して読むことが挙げられる。その際、「一つ」という言葉に着目し、当時の状況や作者の思いなど、読みを深めることができるようにしたい。また、先述の日記をお互いに読み合うことで、自他の考えを比べることもなり、読みを味わわせていきたい。

### 3 目標

- (1) 題名や場面の違いに着目しながら、進んで読み取ろうとする。
- (2) 場面の移り変わりや登場人物の心情を叙述を基に読み取り、それを交流する中でそれぞれの考えに違いのあることに気付くことができる。
- (3) 題名や作品の鍵になる言葉に注目し、作品全体とのかかわりを考えることができる。

### 4 指導計画（全10時間）

過程	時間	主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ・見通す	1	1 全文を通読し、初発の感想を書く。 「一つの花」を読み、初発の感想を書こう。	○ 戦争に関する本を学級文庫に用意し、並行読書ができるようにする。 ○ 3年生の学習「ちいちゃんのかげおくり」を想起することで、題名に意味がありそうだという見通しをもつことができるようにする。
	1	2 新出・読み替えの漢字や語句について調べる。 新出漢字や意味の分からない語句を調べよう。	○ 辞典だけでは理解しにくい語句については、写真を掲示して、理解できるようにする。
	1	3 感想の交流をし、学習のめあてと学習計画を話し合う。 感想の交流から学習のめあてを立て、学習計画を話し合おう。 「一つの花」は何を意味しているのだろうか。	○ 子どもたちの感想を一覧表にし、多様な感じ方があることに気付くことができるようにする。 ○ 一覧表を基に学習のめあてを立て、学習計画を話し合うようにする。
	1	4 場面ごとに読み取る。 (1) 場面を確かめ、読みの視点を把握する。 場面ごとに分けて、小見出しをつけよう。	○ 一学期に学習した「白いぼうし」を想起することにより、読みの視点や表現を意識できるようにする。 ○ 場面を比べて読むには、読みの視点(どのような情景、人物の言葉、行動という観点からキーワードを取り出す)と学び方(場面を比べて読む)を理解することができるようにする。
読み取る	1	(2) 戦争中のくらしの様子について読み取る。 お父さん・お母さんは、ゆみ子にどんな思いをもっていたのだろうか。	○ お父さん、お母さんの言動、言葉から、戦争中の食糧事情やゆみ子への両親の気持ちをはっきりとできるようにする。 ○ 「一つだけ」「～だの」という言葉に着目し、時代背景に気付かせるようにする。 ○ 各場面で、ゆみ子への両親の気持ちを日記に書くことや動作化・劇化することを通して、読み取った情景や心情を読み味わうようにする。

読み深める	1	(3) 父を見送る家族の様子について読み取る。 見送るお母さんと、戦争に行くお父さんの気持ちは、どうだっただろうか。	○ お父さんの行動とお母さんの行動から家族が思い合いながら別れようとしていることに気付くことができるようにする。 ○ 「ばんざい」をするときの意味を考えさせ、お父さんの気持ちに迫っていけるようにする。
	1	(4) 別れる際の家族の様子を読み取る。 一輪のコスモスをわたして別れたお父さんの気持ちは、どうだっただろうか。	○ コスモスの情景について、「はしっぽ」「ごみ捨て場のような」「わすれられたように」という叙述を押さえる。 ○ コスモスの情景と父の行動、言葉（一つだけ）から、一輪のコスモスに託す父親の願いを感じ取ることができるようにする。
	1	(5) 十年の月日が過ぎた場面との変化を読み取る。(本時) 十年後、ゆみ子とお母さんはどのようにくらしているだろうか。	○ 戦争中の場面の情景と十年後の場面の情景を比較することで、ゆみ子と母親の暮らしについて考えさせる。 ○ 「一つだけ」と「いっぱい」「どっちが」という言葉を比べることで、今のゆみ子の暮らしについて考えさせる。
	2	5 作品に込められた作者の思いについてまとめ、交流する。 「一つの花」には、どのような意味がこめられているのだろうか。	○ 「すみれ島」(1991年、今西祐行)を読み聞かせすることで、題名や作品に込められた作者の思いに気付きやすくする。 ○ 初発の感想やこれまでの学習をふり返らせ、十年後の母親の気持ちを想像しながら学習のめあてに迫っていけるようにする。 ○ 友だちの考えに対しての感想を書いていけるようにする。

## 5 本時（8／10）

### (1) 目標

戦争中の場面と十年後の場面について、叙述を基に比較して読み取り、その違いに気付き、二人の暮らしについて想像することができる。

### (2) 指導にあたって

前時までに戦争中の場面の学習を終えている。本時は十年後の場面になるので、「つかむ」段階で、挿絵を用いながらも一度戦争中の場面全体を振り返ってから本時に入っていきたい。

本時は、「比較する読み」を高めるために、戦争中と十年後の比較からゆみ子と母親の暮らしに迫っていけるようにしたい。「読み取る」段階では、叙述を基に、戦争中の場面と十年後の場面とで変わったところにサイドラインを引かせる。「読み深める」段階では、焦点を絞った比較をしたり、戦争が終わったと思われる叙述を見付けたりすることで、平和な時代になったことに気付かせたい。また、ゆみ子と母とのやりとりを劇化することで、二人の暮らしについて想像しやすくなるとともに、読み取りが難しい子への手立てとなると考える。「ふり返る」段階では、書き出しと結びを示すことで、読んだことを書き表しやすくなると考える。

(4) 評価

戦争中の場面と十年後の場面について、叙述を基に比較して読み取り、その違いに気付き、二人の暮らしについて想像することができたか。

(5) 板書計画

場面をくらべて読もう

一つの花 今西 祐行 作

十年後、ゆみ子とお母さんは、どのような生活を送っているだろうか。

戦争中

一つだけ

軍歌  
飛行機・ばくだんの音

父との別れ  
父の思い

くらべる

十年後

・コスモスがいつぱい  
・お肉とお魚どっちがいい  
・ミシンの音がする  
・ゆみ子が大きくなった(成長)  
・お父さんがいない

☆戦争はまだ続いているのだろうか

十年の月日がすぎた  
コスモスの花でいつぱい  
スキップをしている  
ゆみ子がいっぱい物に出かける  
ゆみ子が小さなお母さんになって、  
お昼を作る

平和な時代

ゆみ子とお母さんは、お父さんがいなくても、平和になった時代を力強く、明るく、幸せにくらしている。

< 発問計画 >

- ・ 前の時間は、どんな場면을学習しましたか。
  - ・ 誰の気持ちを中心に考えましたか。
  - ・ ノートを確認してみましよう。
  - ・ お父さんがゆみ子にわたした「一つだけの花」にはどんな気持ちが込められていましたか。
  - ・ これまでの場면을振り返ってみましよう。(挿絵を掲示しながら)
  - ・ 今日学習する場面は、いつの話ですか。
  - ・ 学習計画を見ましよう。誰と誰がいますか。では、今日はその二人の何を考えていきましようか。
  - ・ めあてを書きましよう。
  - ・ どのように暮らしているかを考えるには、戦争中の場面と十年後の場面をどうすればいいだろうか。
  - ・ 戦争中の場面と十年後の場面を比べながら、二人の暮らしについて考えていきましよう。
  
  - ・ ④の場面を読みます。(指名読み) 他の人は、戦争中の場面と十年後の場面とで変わったなと思うところにサイドライン(一)を引きながら読んでいきましよう。
- ～机間巡視～
- ・ 線を引いたところを発表ましよう。(簡単な内容確認。叙述に即しているか確認)
  
  - ・